

プロジェクトの概要

本学は「2021 年度大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に採択されて、福島県田村市で「外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業(事業責任者: 国際環境経済学科米山昌幸教授)」を展開しています。

この中心テーマである「脱炭素社会の実現、再生可能エネルギー100%を目指した持続可能なまちづくり」に関連した活動を米山ゼミの学生スタッフが担っています。2022 年度は、「第 4 期田村市地球温暖化対策実行計画【区域施策編・事務事業編】」策定に際して、パブリックコメントに協力しました。2023 年度から実行計画の施策展開に向けて協力し、地球温暖化対策のイベント(年 1 回)と環境講座(年 1 回)の企画プログラムを実施しています。

田村市長・副市長へのプレゼンテーション

「地方創生☆政策アイデアコンテスト 2024」において、日野原楓(代表: 国際環境経済学科 4 年)、丹野悠太(同 4 年)が、「福島県田村市における再エネを活用した分散型エネルギーシステム構築の提案」を提案し、最終審査会でプレゼンしました。3 年連続で田村市の脱炭素を目指す企画提案をまとめて、3 年連続で東北経済産業局長賞を受賞し、3 年目にしてファイナリストに残ることができました。

そこで、白石高司市長、小野淳一副市長、及び関係部長に、3 年間にわたって積み上げてきた、田村市の脱炭素社会を目指す取り組みについて提案させていただきました。市長は提案内容に大変興味を示してくださり、農家をはじめとする関係者を説得するためのエビデンスを用意したり、田村市で事業を起すにあたって関係者を洗い出すなどして事業計画を作れば、社会実装にもっていけると激励してくださいました。



▲白石市長、小野副市長、及び関係部長へプレゼンする様子



▲プレゼン後の集合写真

福島県立船引高等学校の「総合的な探究学習の時間」の地域課題探究学習の企画・実施

福島県立船引高等学校において「総合的な探究の時間」の地域課題探究学習の企画・実施に協力しました。1 学年 80 名を対象に計 9 回(7/12,9/24,27,10/11,11/22,12/6,13,20,1/17)の授業協力と 2 学年 59 名を対象に 10/25、「気候変動適応ミステリー・ワークショップ」を実施。

本学学生はグループワーク等でのファシリテーターとしての役割を担い、高校生の地域に対する価値や課題を再認識してもらう機会を提供しました。高校の先生方や人材交流ワークショップでの講師の方々から「大学生がいてくれて話が広がった」、「高校生の環境に対する意識が広がった」などありがたいお言葉をいただくことができました。大学生と高校生双方向にメリットがあるものにすることができました。



▲船引高校での「気候変動適応ミステリーWS」の様子

『たむら市政だより』地球温暖化対策の連載コラム「ちょこっと、エコライフ～身近な省エネを実践しよう!～」の執筆

田村市広報誌『たむら市政だより』2023 年 9 月号から、地球温暖化対策の連載コラム「ちょこっと、エコライフ～身近な省エネを実践しよう!～」を学生が執筆。毎月時節にあったテーマで、市民が気軽に取り組める省エネを紹介しています。QR コードを掲載し、獨協大学のホームページの解説ページへもリンクさせて、詳細な省エネ・省 CO₂ 効果計算などについて、詳細な説明を本学ホームページのほうに掲載もしていますので、ぜひご覧ください。

本学ホームページ「『たむら市政だより』ちょこっとエコライフ コラム連載」▶



ちょこっと

田村市×獨協大学

エコライフ～身近な省エネを実践しよう!～

vol.1 ライトダウンからはじめよう!



獨協大学は、省エネや CO₂ の削減に向けて、学生が主体となりライトダウンに取り組んでいます。授業期間中の昼休みに教室を見回り、電気を消して節電を呼びかけています。2022 年の活動に基づく試算では、1 年間ライトダウンを実施すると、およそ 17,500kWh の電力消費量が節電でき、電気料も約 54 万円の節約となります。また、CO₂ 排出量も 8.5t 削減されます。これは、約 607 本の杉の木が 1 年間に吸収する CO₂ 量に相当します。

私たちは、この活動を通して、家庭でも無駄な電気を消すという習慣が身につきました。みなさんも、学校や職場、そして家庭でライトダウンに取り組んでみませんか? (獨協大学国際環境経済学科 3 年 丹野・日野原)

2021年度から田村市で復興知事業に取り組んでいる獨協大学が、9 月号から地球温暖化対策のコラムを担当します。ぜひ、ご活用ください。

獨協大学復興知事業の紹介はコチラ▶



田村市立船引小学校・船引南小学校・美山小学校における環境教育・SDGs 教育の実施

船引小 6 年生 4 クラス(110 名)と船引南小 5 年生 1 クラス(20 名)、美山小 6 年生(20 名)を対象に「SDGs って何?」をテーマに環境教育を行いました。1 時間目に、基本的な SDGs についての説明をした後に、気候変動にトピックを当てた座学の授業を行い、2 時間目では気候変動適応情報プラットフォームが提供するすぐろく「気候変動適応への道」を利用してワークショップを行いました。多くの小学生が SDGs という言葉や意味を知っており、身近な存在であることを再認識しました。また、すぐろくワークショップは、すぐろくに集中してしまい気候変動の課題や適応の学びが十分に深まらなかったように感じたため、来年度の改善点としたいです。



▲「SDGs ってなに?」の授業の様子



▲「すぐろく気候変動適応への道」ワークショップの様子

また、船引小 4 年生 4 クラス(123 名)と美山小 4 年生 1 クラス(22 名)を対象に「川を汚しているのはだれ?」というテーマで環境教育を行いました。

川が汚れる原因や川を汚さないためにできることなどをクイズも交えながら説明した後、洗剤を使わずに食器汚れを落とせるアクリルたわしワークショップを行いました。また、小学校のそばを流れる川の水を採水してもらい、COD パックテストを使用した水質調査を児童と一緒にしました。川をきれいにするために自分たちにできることがあるという気付きを与えることができました。



▲「アクリルたわしづくりワークショップ」の様子

地球温暖化対策イベント「キエーロワークショップ」「断熱ワークショップ」の開催

昨年 9 月 1 日(日)に田村市環境課と共催で田村市船引公民館にてバイオ式ごみ処理機を製作する「キエーロワークショップ」を開催し、田村市民 7 名(5 組)に参加していただきました。大学生 6 名が参加して、市民の方と交流しながらワークショップを行いました。ワークショップ後に、参加した方にキエーロの使用感について取材を行うと、「ゴミ出しの量が減った」、「生ごみをしっかり分別するようになった」など環境に対する意識変化が見られました。また、キエーロの土をプランターに入れて花を育てているなどキエーロをしっかりと活用している様子が伺えました。



▲「キエーロワークショップ」の様子



▲ワークショップ後の集合写真

今年、1 月 26 日(日)には田村市常葉公民館で「断熱ワークショップ」も開催しました。断熱ワークショップでは、前半には断熱の重要性や効果などを座学で学び、後半には、実際に常葉公民館の窓に内窓を設置するワークショップを行いました。ただ設置して終わりではなく、サーモグラフィーを用いて、内窓を設置する前と後とでどれだけの断熱効果があるかを視覚的に感じてもらうような工夫も行いました。田村市民 7 名に参加していただき、窓の断熱を行うことの効果や必要性を実感してもらうことができました。

「断熱ワークショップ」の様子▶

